The Second Joint Meeting of Korean and Japanese Structure and Tectonic Research Groups を経て

1999年8月19日～23日の5日間、日韓構造地質研究会第2回合同大会が北海道様似町で開催されまし
た。大会も巡査も期間中を通してアポイ・山本に滞在しなが
ら実施しました。詳細な内容については、同封のアプストラクトと巡査案内書を参照して下さい。また、
大会の雰囲気は、森田知見氏の鎧を参照下さい。

本大会は、昨年夏に慶應大学で開催された第1回合
同大会に引き続き、日本で開催されたものです。幸いに、
これは日本学術振興会KOSEFの日韓科学協力事業
(セミナー)補助金が通じ、韓国のソウル大学と慶
北大学計9名の学生も参加することができました。日
本側47名、韓国側17名、合計64名の参加者があり、
大変盛り上がりました。

ただ、韓国側で来日を予定していた4名が航空券を
とれなかったため、乗船を断念せざるを得なかったこ
とが残念でした。1日1便のソウル－札幌便はかなり
早くから満席であった様子で、韓国側の航空券につい
ても4名とれない人が出て、2名は仙台経由、2名は福
岡－千歳航空で帰国したと聞いています。この夏メ人
の海外旅行先の一つは韓国であることを事前で聞き、
早めの航空券の手配を促すべきであったと思った次第
です。なお、新千歳空港や札幌では韓国ウォンを日本
円に交換できないことも知りました。

今回の大変に際し、様似町からはすばらしい会場と
横断幕等の提供、レセプションやお別れパーティーや
の多大なる御支援をいただきました。会場の前の桜満
かんらん岩を主とした見事な岩石広場「アポイの鼓
動」は、この合同大会に間に合うように作られたもの
と伺っています。また、4日目夜のお別れパーティー
には様似町教育委員会、アポイファンクラブ等の方々
にパーティーキーで雅かにお会いを賜り、町の人々
とともに、とても和やかでエキサイティングなひと時と
きを過ごすことができました。

なお、前回と今回の講演内容について、韓国地質学
会の国際誌「Geoscience Journal」の特集号として論
文投稿を呼びかけることになりました。日本側編集担
当者として、大藤・茂夫氏に引き受けいただいています。
巡って大藤氏より連絡がある予定です。ぜひ投稿
をお考え下さい。

今回の大変を運営するにあたり、とくに次の方々に
は多くのお力金を賜りました。ここに厚くお礼申し
上げます。

金川久一氏（千葉大）には、巡査案内書の編集のほ
か、巡査器材を運んでいただきました。とくに巡査中
のトランシーバーと拡声器は大変役に立ちました。大
藤・茂夫氏（富山大）には、合同大会のプログラムを作
成していただきました。澤口・隆氏（早稲田大）には、
様似町ならびに参加者との連絡、巡査案内など、多
方面にわたって活躍いただきました。重松純生氏（早稲
田大）には、会計について全面的にお任させました。
水野洋一氏（様似町社会教育課課長）には、早稲田大
学との連絡を始め、様似町の御支援のパイプ役とし
て、大変な時間を割いていただきました。

そのほか、Cho Kyu Hwan君（早稲田大学理工学研
究科D1）には韓国側との連絡役兼通訳として、また
島田耕史君（早稲田大学理工学研究科D2、学振特別
研究員）には大会や巡査運営全般にわたる補佐役とし
て、活躍いただきました。

8月31日付けの元韓国地質学会会長Kim Jeon Hwan
氏からの私宛の電子メールを紹介します。第3回は
2001年に韓国でやりませんかというお誘いを受
けています。

It was a superb experience for me to see the real
accretionary complex at the various outcrops in
Hokkaido. I really appreciate your endless efforts
to prepare the 2nd Meeting. Without you and
your colleagues, and Samani town's support, it can
not be such a fruitful meeting. Congratulations
for the successful meeting.

As you mentioned about the 3rd meeting in
Seoul, we discussed a long time which is the best
way. It will be so difficult for us to prepare the
two meetings in one year. Thus, we have a
conclusion that the 3rd meeting of Japanese and
Korean Structure and Tectonic Research Group
will be held in 2001 year. Date and place will be
informed you future.

なお、来年はIGCP（代表：波田重雄氏）をソウルで
行うこともあり、2000年の構造研合同大会は休むという点で、日韓の意見が一致しました。上記の2001年大会については、せっかくのお申し出でもあり、今後新事務局でも前向きに検討していただきたいと思っています。

次に、今大会のレセプションでの様似町長。様似町議会議長、パープルマーティー（お別れパーティー）での様似町教育長の挨拶文を以下に掲載します。韓国語への翻訳のために皆様に感謝申し上げるとともに、心からご挨拶申し上げます。

様似町長 谷崎敏夫
アソニハシムニカ、ようこそ様似町へお出で下さいました。

第1回目の「韓日構造地質研究会」の会場に、ここ日本国北海道様似町を開催地として選んでいただきましたこと、誠に光栄であり、御関係の皆様に感謝申し上げるとともに、心からご挨拶申し上げます。

様似町は、大韓民国とここ10年余り交流の機会をいただき、現在は友好の諸事情により休止しておりますが、1989年から豊国馬山市城崎高等学校と様似小学校は姫根校として児童・父兄との交流を続けておりますし、その輪は、同市第一コリルクラブを親睦交流に広がり、そして、これは地球科学と申しますか、当町「隠山ちゃん岩」が取り持つ自然体で、地質学を通して、また貴国のとの交流の機会を得ましたごごとに、全町民共々非常に嬉しく思っております。ありがとうございました。ここ様似町には、古くから地質や植物の研究者が、それぞれの研究を深めるフィールドとして多くの方が訪れ、その研究成果を挙げてきたものと思っております。

様似町と言いましても、そのような世界にも貴重な研究資源を有する町の責任として、少しでも世界に貢献できるよう、今ではありますが支援を始めたばかりであり、また、この「韓日構造地質学会」を開催に立つ、2003年に開催されました「第4回国際レルソリット会議」、ここ様似町で開催されるよう希望するものであり、受入についてもできる限りご支援をいたしたいと考えております。

終わりになりますが、この「韓日構造地質研究会」が素晴らしい成果を重ね、そして大韓民国と日本の友情がさらに深まることをお祈りし、歡迎のご挨拶といたします。カムサハムナ、ありがとうございました。

様似町議会議長 小野哲弘
第2回日韓構造地質研究会が、ここ様似町で開催されることは、心からご挨拶申し上げます。

私たち様似町の町民は、町のシンボルでもあるアポイ岳をいつも眺め、また小さいころから阿波イ岳に登り、山で親しんでいます。国の特別天然記念物に指定されている高山植物群落は、町民の誇りでもあります。

世界的にも貴重なかならん岩なので、様似町民にとっては、あまりにも身近な存在であるか、その意味を理解している人は多くはありません。

かならん岩を研究されている皆さんの話を聞きま就是、私はこの地球へのかぎりない興味とロマンを感じます。

かならん岩を縁に、この様似町と、ここにお集まりの韓国や日本各地からお越しの皆様、そして世界中の地球科学を研究されている方々との交流ができることをたいへんうれしく思います。

最後に、この研究会が大きな成果をもって終えますことを祈念し、歓迎のあいさつといたします。
合同大会収支（1999年9月6日）

<table>
<thead>
<tr>
<th>費目</th>
<th>収入</th>
<th>支出</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>日本学術振興会</td>
<td>1,000,000</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>印刷製本</td>
<td>490,000</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>消耗品</td>
<td>18,349</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>会議費</td>
<td>9,863</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>巡査費用（バス代）</td>
<td>200,000</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>アルバイト賃金</td>
<td>108,000</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>レセプション経費</td>
<td>108,685</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>通信費（写真代込み）</td>
<td>66,003</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>学振支出計</td>
<td>1,000,000</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

学振残額 0

登録料 412,000

千歳-様似往復（高速代含） 32,730
昭和新山パンフレット 16,500
千歳-様似往復（大型バス2日） 157,500
巡査費用（中型バス3日含） 178,000
巡査費用（諸雑費） 9,984
その他 12,368

登録料支出計 407,082

登録料残額 4,918

構造研補助（予算） 400,000

印刷製本 318,500
学会準備金 40,000

構造研支出計 358,500

構造研予算残額 41,500

---

第二回日韓合同構造地質研究集団報告

第二回日韓合同構造地質研究集団が、8月19-23日にかけて酒殿カンラン岩体のある北海道の様似町で開催された。参加者は合計64名で韓国からの参加者は17名（学生9名）であった。集会の開催にあたり、巡検案内表にはそれぞれ「謎秘」の地質図とパイプとロソースによる最新の日韓地下構造断面図が使われており、特でかつ実用的なものだった。

19日 千歳空港で韓国の方たちが来訪し、昭和新山にてプレ巡検が行われた。韓国の方々は昭和新山に多くの観光客が訪れていることを見て、日本人は韓国人よりも地元に親近を持っているという驚き（？）の感想をあげていた。

20日に様似町教育委員会の協力で公民館を使用し、口頭発表とポスターセッションが行われた。様似町ではこの日のために新しいOHPを用意してくれた。ま
す様似町の町長から挨拶があり、この挨拶を早稲田大のChoさんが韓国語に訳し、韓国の方に正確に伝えてくれた。彼は公式の場だけでなく、多くの場面で我々と韓国を結ぶ橋渡しをしてくれた。引き続き早稲田大の高木さんの挨拶があり講演が始まった。

講演では、まず最初に日本側が、日本、日高、北海道の地質構造、テクトニクスの大枠を説明した。基本的ではあるが、最近の研究のレビューも含み、巡検にもつながる内容であった。

その後、3つのサブセッションが設けられ、11件の講演があった。多くの講演が日本海形成以前は日本と韓国が近接していたことを意識しつつ、構造帯形成の運動像を論じるものであった。

昼食後には、様似町役場前に今年度作成された“アボイの鼓動”という広場に設置された数メートル規模の切削研磨された大きな岩石標本（カンラン岩、変成岩、ガブロ、トーナライト）の観察を行った。様々な岩石のメソスケールの構造が観察できるために、各岩石ごとに大きな輪ができてその場で議論がなされていった。この場は一見の価値があり、様似巡検のときはここに立つことをおすすめする。

夕方には29件のポスター講演があり、2時間以上の時間が割られた。院生クラスの現在進行中の研究にも多く、刺激的であった。例年のように北極道であったことも影響し、ポスターの説明をする方から聞く方も終了したときには汗たくなくなくなってしまった。

ホスト巡検は2日間に渡って行われた。単型のバスが3台で合計50名以上の大所帯であったが、巡検はスムーズに行われた。いずれの地点でも、案内者の周囲はクリティカルな議論が活発になされ、一方その周囲では自然と基本的な説明が生まれ、勉強になった。また、私と同世代の案内者たちが英語でしっかりと説明をしていることに強く刺激を受けた。

初日午前は様似カンラン岩体のマロノイト、及び構造がよく観察できる露頭で行われた、マロノイトからは上盤北向きの伸展場が推定されることが説明され、カンラン岩及びそれを含めた日高帯の運動像を明する上でも重要であることを感じさせた。観察岩体は世界でも有数の新鮮なカンラン岩体であるため、多くのカンラン岩のサンプルを持ち帰り、午後には日高変成帯主体構成岩石を観察した。まず、様似川河口の変成岩とトーナライトのマイロノイト、及びシードタキライトを観察し、その後北トグネビル川に移動し、林道沿いの変成岩とトーナライトとシードタキライトを観察した。残念ながら変成度を示す岩石の露頭までは行けなかったが、案内者がサンプルを用意していただいた。

2日目午前はイオンチャージ帯のメランジュ、ヒエーレントユニットなどの付加体に発達する構造などを観察した。メランジュユニットではプレックの年代の古さ、ヒエーレントユニットではメランジュになりかけた構造が話題となった。午後の部への移動の途中で、様似町東北鉄道を様似巡検に出たところの日高緑の境界露頭を観察した。この露頭は道路工事に伴いなくなった可能性があり、ところがこの露頭前に雨が降り、残してもらえるよう現在提案中だそうだ。午後の部は強く変形を受けた第三紀の下部の礁岩を観察した。礁礁が破壊を受けた、様々な変形構造を呈しているのが観察された。この地域では、ほとんどシステムと呼ばれるような変形した岩石から、時間が長かったため観察はできなかったが非変形礁岩まで分け、その差が驚きの対象であった。最後は様似町に向かって壮大な景色を見て巡検のフィナーレを迎えた。

全日程ともアボイ岳の麓にあるアボイ岳荘で宿泊した。講演が終わった夜には歓迎パーティーが、また最終日には様似町教育委員会・アボイ岳カフェクラブ・酒井観光バス・アボイ岳荘の援助と協力を受けたパレィディール大会が開催された。パレィディール大会の終盤にはおいしい料理に適度なお酒が入り、研究者だけでなく町民も交えて、大声で歌を歌い、そして踊りと一緒に時間を過ごした。その後は宿に戻り、朝4時まで早起きでなくプライベートなことまでじっくり話した（といっても私は12時過ぎに早くもダウンしてしまった）。やはり韓国の学生達は付加体の構造がもっと印象深かったそうだ。

本会は早稲田大学の湖口沢さんが7年間か及ぶ様似町での観察の間に築いた親密なネットワークが、教育委員会をはじめとする町の方々の協力を得ることができた。ちなみに様似町では研究者を支援するために格安で宿泊施設を提供しており、この施設にはなんと、料理を製作する岩礁オーナー、グラインダー、偏光顕微鏡設置が遙かっていた、大変ありがたい。

最後に改めて、様似町教育委員会をはじめとする様似町と町民の皆さん、本会の実行委員会のメンバー、及び影で支えてくれた早稲田大を中心にとする各大学の学生・院生の皆さんに感謝の意を表したい。

（森下知晃 日本学術振興会特別研究員・金沢大）
日高山脈の形成とともに
アボイ岳ができた

![日高山脈の形成図]

北米プレートとユーラシアプレートの境界で、日高山脈ができました。東側の北米プレートが西側に乗り上げ、山脈が形成されました。約3000万年前のことです。

その地下部でつくられていた日高山脈の漂着層や断面層は、山脈の上部とともに地下から押し上げられて地表に露出しました。「断層運動」のように地球が大規模に変動するとき、地表の岩石は切られ、移動するのです。かんなら岩は、なかなかもともと湖沼の湖盆の「上部マントル」から押し上げられた岩石、これがアボイ岳です。

アボイは世界的な学術標本

毎年、国内外からも多くの研究者が訪れています。

アボイのかんなり岩は、とても新鮮です。かんなら岩に含まれる酸化物は、かんなら石、炭酸塩石、高溫帯の上部マントルにあったもので、アボイは世界的な学術標本です。アボイは東北、世界中の研究者にとって重要な場所です。